神奈川県

参考資料

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技 大会推進かながわアクションプログラム

進捗状況調書 2017 年度

平成 30 年 6 月

神奈川県

～目次～

進捗状況調書作成の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

取組分野・施策等の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

1　推進体制の整備

（1）大会に関する総合調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（2）オール神奈川としての推進体制の整備・・・・・・・・・・・・・・5

2　ラグビーワールドカップ 2019™ に向けた取組み

（1）大会運営に関する取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

（2）横浜市と連携した大会の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（3）大会に向けた県内の機運の醸成・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

3　東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

（1）大会に向けた機運の醸成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

4　東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

（1）江の島（湘南港）開催に向けた整備・・・・・・・・・・・・・・・10

（2）交通・輸送対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

（3）地元や湘南港利用者への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

（4）大会に向けた機運の醸成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

5　東京 2020 大会・野球／ソフトボール競技及びサッカー競技に向けた取組み

（1）横浜市と連携した大会の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（1）ボランティアの育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
（2）事前キャンプの誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
（3）治安・防災対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
（4）医療対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
（5）交通網の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
（6）バリアフリー対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
（7）来県外国人等への多言語による情報提供・・・・・・・・・・・・・・29
（8）グローバルな視野を持つ人づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・30

2　国際観光地としての魅力向上

（1）観光客誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
（2）新たな観光の魅力づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
（3）観光の基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

3　神奈川から魅せる文化

（1）文化プログラムの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

4　オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

（1）オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進・・・・・・・・・40

5　大会開催を契機としたスポーツ振興

（1）かながわパラスポーツの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
（2）アスリートの育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
（3）スポーツに親しむ環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

進捗状況調書作成の趣旨

ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、県の取組みを計画的に推進するため、大会を迎えるに際して必要な具体的施策・事業を明らかにする「ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」を、平成 28 年 10 月に作成しました。

プログラムは、対象期間中（平成 28 年度～平成 32 年度）に、構成や施策・事業について、必要に応じて毎年度見直すこととしており、見直しにあたっては、年度ごとの取組状況を把握し、次年度以降の取組みに反映させる必要があります。

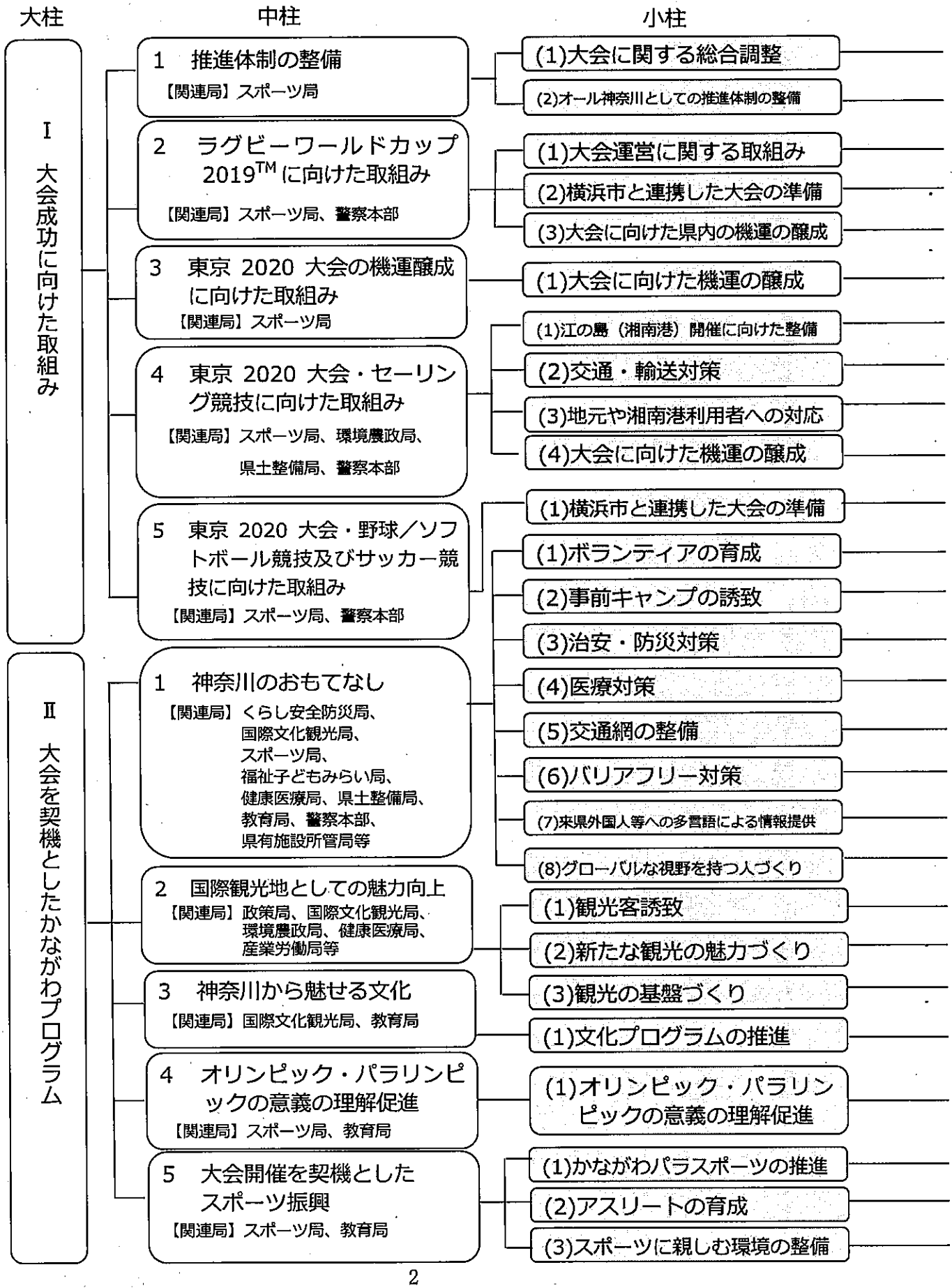
そこで、2017 年度の取組状況を把握し、次年度の取組みの方向性を示す「進捗状況調書 2017 年度」を作成することとしました。

○ 「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」の見直し

両大会の準備に向けた取組みは、それぞれの組織委員会等との協議調整を通じて今後本格化していくこと、また、大会直前に至るまで、新たな課題の発生が予測されること等から、「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」の構成や施策・事業は、必要に応じて毎年度見直すこととします。

「ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」（平成29年７月改訂版）２ページ『プログラムの基本的性格』より

取組分野・施策等の体系【プログラム（平成29年7月改定版）】



主な取組事項

①組織委員会などの関係機関との総合調整 P.4

①ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 大会に向けた県内推進体制の整備 P.5

①開催都市分担金の負担等 P.6

①横浜市と連携したラグビー競技の普及啓発、会場整備等、②警備・交通対策等 P.7

①市町村や企業等と連携した普及啓発 P.8

①各種機運醸成の取組み P.9

①神奈川県会場プラン（調整素案）を基にした大会組織委員会等との調整、②港湾施設等の整備、③レース海面案の調整 P.10

①交通・輸送対策に係る関係団体等との調整、②選手・大会関係者の輸送対策の検討、③観客等の輸送対策の検討、④警備・交通対策等、⑤観客等の歩行ルートのバリアフリー化 P.12

①既存艇の移動、②漁業関係者との調整、③地元住民団体等との連絡調整 P.14

①各種普及啓発活動の実施、②神奈川県の選手を中心とした日本人選手への支援 P.16

①横浜市と連携した野球／ソフトボール競技及びサッカー競技の開催準備等、②警備・交通対策等 P.18

①大会ボランティアの参加促進、②観光ボランティア等の育成・配備 P.19

①各種事前キャンプの誘致、②ホストタウンの取組み P.21

①治安対策の推進、②テロ対策訓練、③防災対策 P.23

①熱中症対策、②感染症対策、③公共的施設における受動喫煙防止対策 P.25

①幹線道路等の整備 P.27

①バリアフリーの街づくりの推進、②県有施設のバリアフリー化 P.28

①多言語支援センターかながわによる情報提供、②医療通訳派遣システム事業の推進、③外国人向け医療情報の提供 P.29

①かながわ国際ファンクラブの推進、②コミュニケーション支援ボランティアの育成、③外国語教員を対象とした研修の推進、④グローバル人材の育成、⑤人権啓発事業の推進 P.30

①県内を周遊するツアーの企画・商品化、②戦略的プロモーションの推進、③県産品の魅力向上、④県産農林水産品の発掘及び販売促進 P.33

①新たな観光の核づくりの推進、②かながわシープロジェクトの推進、③三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進 P.35

①観光案内・観光情報の多言語化、②外国人観光客の動態・ニーズ分析、③Wi-Fi・トイレ等の整備、④ホテルの誘致、⑤宿泊施設の多様化の取組み P.37

①文化プログラムの推進 P.39

①県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進、②学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進 P.40

①「かながわパラスポーツフェスタ」等の実施、②学校におけるかながわパラスポーツの普及、③障害者スポーツの普及推進、④健康・生涯スポーツの普及推進 P.41

①体育センターの再整備、②相模湖漕艇場の整備、③アスリートの育成支援、④県内中学校・高等学校における部活動活性化、⑤ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致 P.43

①3033 運動の推進、②子ども☆キラキラプロジェクト、③スポーツボランティアの育成 P.45

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

1　推進体制の整備

（1）大会に関する総合調整

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるため、関係機関と連携・協力します。

（取組内容）

円滑な大会実施のため、各大会組織委員会などの関係機関との調整を図ります。

2017 年度の主な取組みと実績

①　組織委員会などの関係機関との総合調整

【ラグビーワールドカップ 2019】

・開催都市合同会議（8月）及び開催自治体と組織委員会の調整会議（9月、10 月、3月）において開催都市と組織委員会で情報共有及び意見交換を実施

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】

・大会組織委員会などの関係機関と密に連携をとり、調整を実施し、平成 29 年5月 31 日に、東京都、組織委員会、国及び関係自治体の間で、役割分担・費用負担について大枠合意

2018 年度の取組みの方向性

①　組織委員会などの関係機関との総合調整

継続

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】

・大枠合意に基づき、組織委員会の各セクションと個別の作業項目について調整を実施

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

1　推進体制の整備

（2）オール神奈川としての推進体制の整備

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるため、地域の市町村や関係団体と一体となった取組みを展開します。

（取組内容）

ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、県内推進体制を整備します。

2017 年度の主な取組みと実績

① ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会に向けた県内推進体制の整備

・神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策推進本部会議を2回開催

・5月 12 日に、第2回ラグビー・オリパラ神奈川応援団を開催、両大会の成功に向け、構成員間の情報共有を実施

2018 年度の取組みの方向性

① ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会に向けた県内推進体制の整備

継続

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

2　ラグビーワールドカップ 2019™ に向けた取組み

（1）大会運営に関する取組み

（ねらい）

「横浜市・神奈川県」において決勝戦が開催されるラグビーワールドカップ 2019 を成功させるため、大会運営の支援に取り組みます。

（取組内容）

大会組織委員会に対して開催都市分担金を拠出するなど、大会運営の支援に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

① 開催都市分担金の負担等

・開催都市分担金及び宝くじ拠出金の支払いを実施

2018 年度の取組みの方向性

① 開催都市分担金の負担等

継続

・宝くじ拠出金の支払いは、2018 年度も継続

・2018 年度から、大会組織委員会に職員を派遣

（参考）取組みに関する情報

・ラグビーワールドカップ 2019 公式ホームページ
https://www.rugbyworldcup.com/

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

2　ラグビーワールドカップ 2019™ に向けた取組み

（2）　横浜市と連携した大会の準備

（ねらい）

「横浜市・神奈川県」において決勝戦が開催されるラグビーワールドカップ 2019 を成功させるため、横浜市と協力しながらラグビーの普及啓発や警備・交通対策の準備を進めます。

（取組内容）

横浜市と連携し、普及啓発や会場整備を進めます。また、大会を通じての警備・交通対策を進めます。

2017 年度の主な取組みと実績
①　横浜市と連携したラグビー競技の普及啓発、会場整備等 ・横浜国際総合競技場で初のラグビー国際試合となる日本代表戦対オーストラリア代表戦を開催（観客数：43,621 人） ・ブレディスローカップ（ニュージーランド代表対オーストラリア代表）を誘致 ・日本代表戦に合わせて、横浜国際総合競技場周辺で「横浜ラグビーカーニバル」を開催（来場者数：約 5,000 人） ・マークイズみなとみらいで「大会2年前イベント」を実施（来場者数：約 1,500 人） ・世界トライアスロンシリーズ横浜大会等のイベントへのブース出展、パブリックビューイング、ストリートラグビーなどを通じて普及啓発を実施 ・運営計画について、組織委員会及び横浜市と検討を実施
②　警備・交通対策等 ・横浜市の設置した「ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた危機管理プロジェクト」にオブザーバーとして参加し、情報共有を実施 ・横浜市等と連携して機動隊や警察署等が参加したテロ対策訓練を実施 ・選手・関係者輸送ルートについて大会組織委員会及び横浜市と検討を実施

2018 年度の取組みの方向性
①　横浜市と連携したラグビー競技の普及啓発、会場整備等 拡充 ・ブレディスローカップ（ニュージーランド代表対オーストラリア代表）の開催や大会 500 日前イベント、1 年前イベント、シティドレッシング等の実施
②　警備・交通対策等 継続

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

2　ラグビーワールドカップ 2019™ に向けた取組み

（3）　大会に向けた県内の機運の醸成

（ねらい）

「横浜市・神奈川県」において決勝戦が開催されるラグビーワールドカップ 2019 を成功させるため、県内全域において大会の機運を醸成します。

（取組内容）

県内市町村や企業等と連携し、県内全域で普及啓発に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①　市町村や企業等と連携した普及啓発

・東海大学ラグビー部と連携し、「丹沢祭」を共同開催（7月、来場者数約 1,000 人）
・小田原市と共同でストリートラグビー（8月、来場者数約 1,000 人）などイベントを実施
・東京ガスと連携し、親子ラグビーバスツアーを実施（10 月、参加者数 70 人）
・厚木市と連携し、厚木国際大道芸においてPRブースを出展（11 月、来場者数約 1,000 人）
・日本ラグビーフットボール協会と連携し、川崎で日本代表戦PRイベントを実施（10 月、約 800 人）
・海老名市と連携し、「かながわラグビーフェスタ in 海老名」を実施（11 月、来場者数約 900 人）
・大会チケット開催都市住民先行抽選販売に合わせて、川崎、相模原、藤沢でPRイベントを実施（3月、約 7,300 人）
・バスケットボールBリーグ開催の試合会場でPRブースを出展

2018 年度の取組みの方向性

①　市町村や企業等と連携した普及啓発

拡充

・市町村や企業等との連携を進めるほか、多くの人が集まる商業施設等で、トークショーや大会出場国の文化発信、交流イベントを実施するとともに、ラグビー体験等を行うキャラバンイベントを開催

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

3　東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

（1）大会に向けた機運の醸成

（ねらい）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるため、大会全体の機運を醸成します。

（取組内容）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成のため、各種広報活動を実施します。

2017 年度の主な取組みと実績

① 各種機運醸成の取組み

・東京 2020 大会を目指す神奈川ゆかりのアスリートを紹介する動画「Athlete Coming!」を配信（計6選手）

・東京 2020 大会 1,000 日前イベント及びセーリング陸上体験会の開催（来場者等、約 5,500 人）

・「東京五輪音頭-2020-神奈川 ver.」の作成

2018 年度の取組みの方向性

① 各種機運醸成の取組み

拡充

・セーリングを含む、大会全体の機運醸成を図るため、セーリング陸上体験会と東京 2020 大会2年前イベントを同時開催

・ラグビーワールドカップ 2019™と東京 2020 大会が連続して開催されることを契機に、平成 30 年度からの3か年をスポーツに関する施策の集中実施期間とし、その期間に両大会の機運醸成等に取り組む市町村（政令市を除く）を、新たな補助制度により支援

② 聖火リレーに関する取組み

新規

・聖火リレーの円滑な実施に向けて、「東京 2020 オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会」を設置

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

4　東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

（1）　江の島（湘南港）開催に向けた整備

（ねらい）

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技に向けた会場の準備を円滑に進めます。

（取組内容）

神奈川県会場プラン（調整素案）を基に、大会組織委員会等と調整を進めます。また、レガシーとなる施設の整備等を行います。

2017 年度の主な取組みと実績

①　神奈川県会場プラン（調整素案）を基にした大会組織委員会等との調整

・2016 年に神奈川県から示した調整素案を基に、大会運営主体である組織委員会と調整し、組織委員会としての会場プランの策定に連携・協力

②　港湾施設等の整備

・湘南港の機能強化や江の島地域の活性化を図るため、江の島大橋の拡幅整備工事に着手し、鎌倉市側の拡幅整備が完了

・艇整備庫等を備えた「セーリングセンター（仮称）」や給油施設の設計を実施

・湘南港（藤沢市江の島）にある艇の移動先を確保するとともに、大会後もセーリングを広く普及させるため、葉山港（葉山町堀内）の船舶保管地の改修が完了

③　レース海面案の調整

・オリンピックという最高峰の大会にふさわしいレースエリアを確保するとともに、漁業活動への影響ができるだけ少なくなるよう、大会組織委員会が行う漁業活動との調整に、県として、積極的に協力

2018 年度の取組みの方向性

①　会場プランに関する大会組織委員会との調整

拡充

・大会運営主体である組織委員会による会場プランの策定に向けて連携・協力

②　港湾施設等の整備

継続

・江の島大橋の拡幅整備等を引き続き実施するとともに、湘南港内に「セーリングセンター（仮称）」や給油施設の建設工事に着手

・大会に相応しい会場を準備するため、江の島島内のトイレ改修に必要な設計を行うとともに、浮き桟橋など既存の港湾施設の補修を実施

③ レース海面案の調整

継続

・引き続き大会組織委員会が行う漁業活動との調整について、県として積極的に協力

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

4　東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

（2）　交通・輸送対策

（ねらい）

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を成功させるため、会場周辺道路等における交通・輸送対策について、大会組織委員会との調整を進めます。

（取組内容）

選手・大会関係者・観客等の交通・輸送対策について関係団体等との連絡調整等を行いながら、県としての輸送対策についての素案を検討し、大会組織委員会と輸送対策案の調整を進めます。また、警備諸対策や交通規制等交通対策を推進するとともに、観客等の歩行ルートのバリアフリー化を進めます。

2017 年度の主な取組みと実績

① 交通・輸送対策に係る関係団体等との調整

・相模湾沿岸自治体や、地元の関係団体、観光協会、商工会議所等をメンバーとした「江の島セーリング競技推進連絡会議」を1回実施（通算4回）。その中で、輸送の検討状況について、大会組織委員会から地元関係者に対して説明する場を設置

・大会組織委員会が輸送方針策定等のために設置した「神奈川県輸送連絡調整会議」に参画

② 選手・大会関係者の輸送対策の検討

・輸送対策を検討する大会組織委員会に対し、県が実施した自動車交通量調査結果等を提供し、調整を実施

③ 観客等の輸送対策の検討

・輸送対策を検討する大会組織委員会に対し、県が実施した歩行者交通量調査結果等を提供し、調整を実施

④ 警備・交通対策等

・「セキュリティ連絡調整会議」「輸送連絡調整会議」等において関係団体等との情報共有を実施

⑤ 観客等の歩行ルートのバリアフリー化

・アクセシブルルートを検討する大会組織委員会に対し、県が実施したバリアフリー調査結果を提供し、調整を実施

・信号機等交通安全施設の整備、更新を実施

2018年度の取組みの方向性
① 交通・輸送対策に係る関係団体等との調整 継続 ・「江の島セーリング競技推進連絡会議」や大会組織委員会が設置した「神奈川県輸送連絡調整会議」の場を活用し、関係団体等との調整を推進
② 選手・大会関係者の輸送対策 拡充 ・大会組織委員会から関係者輸送ルート案が示されたことを受け、関係機関と連携しながら、取組みを推進
③ 観客等の輸送対策 拡充 ・大会組織委員会から観客利用想定駅が示されたことを受け、関係機関と連携しながら、取組みを推進
④ 警備・交通対策等 継続
⑤ 観客等の歩行ルートのバリアフリー化 継続 ・ルート決定後に、県管理道路について必要な対策を実施

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

4　東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

（3）地元や湘南港利用者への対応

（ねらい）

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を成功させるため、地元や湘南港を使用しているヨット等の利用者との調整を進めます。

（取組内容）

セーリング競技実施に伴う湘南港を使用しているヨット等の利用者や周辺漁業等に生じる影響について、地元住民団体や利用者、漁業関係者等との調整を十分に行います。

2017 年度の主な取組みと実績
①　既存艇の移動 ・競技実施に伴う既存艇の移動等の影響について、個別説明を実施
②　漁業関係者との調整 ・漁業活動への影響ができるだけ少なくなるよう、大会組織委員会が行う漁業活動との調整について、県として、積極的に協力
③　地元住民団体等との連絡調整 ・セーリング競技推進会議を開催するなど、連絡調整及び情報交換を実施

2018 年度の取組みの方向性
①　既存艇の移動 継続 ・競技実施に伴う既存艇の移動等の影響について、引き続き利用者に適宜説明を行うとともに、移動先となるマリーナ等の受入に関する調査などを実施し、必要な時期に移動が円滑に行われるよう、調整を実施
②　漁業関係者との調整 継続 ・引き続き大会組織委員会が行う漁業活動との調整について、県として、積極的に協力

③ 地元住民団体等との連絡調整

継続

・地元と一体になった大会運営を目指すため、引き続き意見交換や情報共有を実施

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

4　東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

（4）大会に向けた機運の醸成

（ねらい）

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を成功させるため、大会の機運を醸成します

（取組内容）

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技開催に向けた機運醸成のため、広報活動を実施するとともに、神奈川県の選手を中心とした日本人選手への支援を行います。

2017 年度の主な取組みと実績

①　各種普及啓発活動の実施

・小・中学生及び障がい者を対象としたセーリング海上体験会を開催（5日間、計 183 人）
・高校生を対象したセーリング海上体験会を開催（2日、計 84 人）
・市民祭りなどの地域住民が多く集まるイベントで、セーリング出張体験会を開催（3日間、計 1,156 人）
・劇場や電車内等のデジタルサイネージでセーリングイメージ動画及び各種体験会の情報を放映（3劇場・1駅・1路線・1施設）
・江の島で練習を始めている海外のセーリングチームと県民、湘南港利用者との交流事業を地元市町村と連携を図りながら実施

②　神奈川県の選手を中心とした日本人選手への支援

・日本人選手が海外の有力選手と練習や試合を行う機会を創出するため、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会実行委員会に参画

2018 年度の取組みの方向性

①　各種普及啓発活動の実施

拡充

・県民へのセーリングの認知拡大を図るため、セーリング出張体験会の回数を増加して実施
・アンケート結果を踏まえ、要望の多かった親子一緒に体験できるセーリング海上体験会を実施

・横須賀で開催される「ANAウインドサーフィンワールドカップ」と江の島で開催される「セーリングワールドカップシリーズ」を2つの海のワールドカップとして、連携した広報の実施

② 神奈川県の選手を中心とした日本人選手への支援

継続

・日本人選手が海外の有力選手と練習や試合を行う機会を創出するため、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の開催に協力

③ セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の支援

新規

・東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技開催に向けた機運醸成のため、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会実行委員会の一員として、広報活動等に協力

（参考）取組みに関する情報

・セーリングの普及啓発に関する取組みについて
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532787/

Ⅰ　大会成功に向けた取組み

5　東京 2020 大会・野球／ソフトボール競技及びサッカー競技に向けた取組み

（1）　横浜市と連携した大会の準備

（ねらい）

東京 2020 オリンピック競技大会において、横浜スタジアムで開催される野球／ソフトボール競技及び横浜国際総合競技場で開催されるサッカー競技を成功させるため、横浜市と協力しながら開催準備や警備・交通対策の準備を進めます。

（取組内容）

横浜市と連携し、開催準備等を進めるとともに、警備・交通対策を進めます。

2017 年度の主な取組みと実績
① 横浜市と連携した野球／ソフトボール競技及びサッカー競技の開催準備等 ・横浜市と連携し、大会組織委員会等と調整を実施
② 警備・交通対策等 ・横浜市、大会組織委員会と横浜スタジアム、横浜国際総合競技場及びその輸送に係る検討会を実施 ・横浜市等と連携し、機動隊や警察署等が参加してテロ対策合同訓練を実施

2018 年度の取組みの方向性
① 横浜市と連携した野球／ソフトボール競技及びサッカー競技の開催準備等 継続
② 警備・交通対策等 継続

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（1）　ボランティアの育成

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、活躍が期待されるボランティアの育成に努めます。

（取組内容）

大会ボランティアへの参加促進を進めるとともに、観光ボランティア等の育成・配備も併せて推進します。

2017 年度の主な取組みと実績

①　大会ボランティアの参加促進

【ラグビーワールドカップ 2019】

・大会組織委員会が組織する大会ボランティアの募集等に向けて、役割分担やスケジュール、応募要件等について、大会組織委員会と意見交換を実施

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】

・大会組織委員会が組織する大会ボランティアの募集等に向けて調整

②　観光ボランティア等の育成・配備

・通訳案内士と観光関連事業者のマッチングイベントを開催（通訳案内士 109 名）

・県内で活動しているガイドを対象に県観光魅力創造協議会が発掘し、磨き上げた、外国人が魅力を感じる県内の観光資源等を紹介する実地研修を実施（計4回、延べ 137 名）

・おもてなし人材の育成に関する研修会を実施（外国人案内ボランティアの志望者向け講習会：112 名、通訳案内士向け営業力向上セミナー：257 名）

・民間事業者等へ手話講習会開催の働きかけを実施（55 社 66 回開催）

2018 年度の取組みの方向性

①　大会を支えるボランティアの参加促進

拡充

【ラグビーワールドカップ 2019】

・ボランティアの募集（4月 23 日～7月 18 日）について、広く周知を行う

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】

・大会に関連するボランティアに関する情報提供や、県民の参加促進等を目的としたイベントを開催

② おもてなしを担うボランティア等の育成・配備

拡充

・県観光魅力創造協議会で発掘した観光資源・周遊ルートの普及啓発
・観光ガイド団体等とガイド志望者が交流できるマッチングの場の提供
・国内の第一線で活躍する通訳案内士を招聘して研修を実施
・ガイド志望者に向けて段階別に研修を実施し、新たな通訳ガイドの育成に繋げる

（参考）取組みに関する情報

・事業者の手話講習会開催状況について
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/n7j/cnt/f537527/index.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（2）　事前キャンプの誘致

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた各国・地域の事前キャンプの誘致等により、スポーツ振興、国際交流・理解の促進及び大会機運の醸成などを図ります。

（取組内容）

世界のトップアスリートに神奈川の魅力を伝え、県民との交流を実現するため、ラグビーワールドカップ 2019 に係る事前キャンプを誘致します。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に係る各国・地域の事前キャンプを県内市町村と誘致するとともに、国のホストタウン制度を活用し、各国・地域の選手等と地域住民との交流に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

① 各種事前キャンプの誘致

【ラグビーワールドカップ 2019】

・公認チームキャンプ地に応募した神奈川県・藤沢市、横浜市、厚木市及び海老名市において、大会組織委員会による実地審査の受入

・出場チームによる応募地の視察の対応

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】

・小田原市、箱根町、大磯町及び星槎グループとともに、ブータン王国と事前キャンプに関する協定を締結（4月）

・相模原市とともに、カナダボート協会と事前キャンプに関する覚書を締結（1月）

・セーリング競技のフランスとアメリカの選手が近隣学校の生徒と交流（10 月）

② ホストタウンの取組み

・エリトリア国、ブータン王国との交流事業「SKY プロジェクト」を2回実施（9月、11 月）

2018 年度の取組みの方向性

① 各種事前キャンプの誘致等

継続

【ラグビーワールドカップ 2019】

・「公認チームキャンプ地」の内定を受けて、当該自治体と連携して受入準備を実施

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会】
・各国・地域の事前キャンプ誘致に向け、県内市町村や民間団体等と連携し、積極的な誘致活動、視察受入を実施

② ホストタウンの取組み

継続

（参考）取組みに関する情報

・事前キャンプ誘致に向けた取組
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/x3t/tokyo2020/pre-camp.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（3）治安・防災対策

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、本県を訪れる各国の選手や関係者、国内外からの旅行者の安全・安心を確保するため、治安対策を推進します。

（取組内容）

本県の治安対策を推進するとともに、テロ対策の訓練を実施します。また地震・津波等の防災対策も同時に推進します。

2017 年度の主な取組みと実績

① 治安対策の推進

・官民一体となったテロ・災害対策を推進するため、テロ・災害対策神奈川協力会総会を開催し、「東京 2020 大会のセキュリティを考える」と題した講演や国際テロ情勢についての研修等を実施

・サイバー空間の脅威に対処するため、重要インフラ事業者等との共同対処訓練を実施

・神奈川県サイバーテロ対策重要インフラ事業者等連絡協議会を開催し、サイバー攻撃の情勢及び対応策について、有識者による講演及びインシデントハンドリング演習を実施

② テロ対策訓練

・テロ災害対応を目的とした国民保護訓練を小田急線片瀬江ノ島駅及び江の島ヨットハーバーにおいて実施（43 機関 約 1,000 名参加）

・関係機関と連携し、機動隊や警察署等が参加してテロ対策合同訓練を実施

③ 防災対策

・地域防災力の強化と防災意識の向上を図ることを目的とし、九都県市合同防災訓練の幹事県として、例年と比べ訓練規模及び内容を拡充し、大規模な県市総合防災訓練ビッグレスキューかながわを小田原市において実施（延べ143機関、参加人数約 10,000 人）

・「ふれあい警察展」などのイベントで防災啓発チラシの配布や震災関連のパネル展示等を実施

2018年度の取組みの方向性
① 治安対策の推進 継続
② テロ対策訓練 継続 ・国民保護訓練を横浜市(予定)で実施し、関係機関のテロ対応力強化を図る
③ 防災対策 継続 ・県市総合防災訓練(ビッグレスキューかながわ)を海老名市、津波対策訓練を三浦市で実施し、引き続き、地域防災力の強化と防災意識の向上を図る

(参考) 取組みに関する情報
・平成29年度実施訓練 http://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/bousai/1_10502_10.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（4）　医療対策

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、本県を訪れる各国の選手や関係者、国内外からの旅行者が、健康に不安を感じることなく滞在できるよう対策を実施します。

（取組内容）

熱中症や感染症の予防対策を進めるとともに、感染症指定医療機関の機能強化や、患者の搬送等訓練を行うことで、感染症が発生した場合、安全で迅速な対応ができるよう対策を検討します。

また、公共的施設における受動喫煙防止対策に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

① 熱中症対策

・予防対策として普及啓発活動の実施（ポスターの配布：市町村・関係機関等へ企業と連携して作成したポスター200 枚配布、県ホームページの掲載等）

・市町村保健事業主管課長会議での周知

② 感染症対策

・新型インフルエンザを想定した訓練を実施（1回）

・イベントや企業内における無料の風しん抗体検査を実施（各1回）

・特定の地域や時期等における感染症流行の可能性を示した「リスク評価書」を作成

③ 公共的施設における受動喫煙防止対策

・飲食店などの公共的施設を約6，300回（平成29年 12 月末現在）訪問し、受動喫煙防止対策を周知・徹底

・各国選手や国内外からの旅行者に対する観光情報誌等を活用した本県受動喫煙防止対策の発信

・東京 2020 公認プログラム「受動喫煙防止県民向けイベント」で、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会はたばこの煙のない大会を目指していることを周知

2018 年度の取組みの方向性

① 熱中症対策

継続

② 感染症対策 拡充 ・感染症発生状況の調査、集計体制及び検査体制の強化に向けた取組を推進
③ 公共的施設における受動喫煙防止対策 継続

（参考）取組みに関する情報
・かながわのたばこ対策について http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f6955/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（5）　交通網の整備

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を受け、道路や鉄道など、交通ネットワークの充実や既存インフラの活用を推進します。

（取組内容）

幹線道路ネットワークの整備を図るとともに、スマートインターチェンジの整備促進などにも併せて取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①　幹線道路等の整備

・自動車専用道路の早期整備に向け、国などへ要望活動を実施
・新東名高速道路「海老名南ジャンクション」から「厚木南インターチェンジ」までの区間の開通（2018 年1月）
・（都）久里浜田浦線の開通（2017 年 9 月）
・スマートインターチェンジの整備に向け、用地取得や工事などを実施
・東名高速道路大和トンネル付近等の渋滞対策を実施
・観光地表記などの分かりやすい道路案内標識の整備を実施

2018 年度の取組みの方向性

①　幹線道路等の整備

継続

（参考）取組みに関する情報

・国への要望活動について（道路企画課HP）
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532140/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（6）バリアフリー対策

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、段差解消や幅広歩道の整備など、誰にでもやさしいバリアフリーの街づくりを推進します。

（取組内容）

バリアフリーの街づくりを推進するとともに、県有施設のバリアフリー化に取り組みます

2017 年度の主な取組みと実績

① バリアフリーの街づくりの推進

・神奈川県バリアフリー街づくり条例に基づく公共的施設に係る事前協議の実施（528件実施）

・神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議の開催（①平成29年9月、②平成30年3月）

・バリアフリーフェスタかながわ 2017 の開催（平成 29 年 10 月）

② 県有施設のバリアフリー化

・県民ホール等の県有施設において、仮設スロープを設置するなど、バリアフリー化を推進

2018 年度の取組みの方向性

① バリアフリーの街づくりの推進

継続

② 県有施設のバリアフリー化

継続

（参考）取組みに関する情報

・バリアフリーの街づくりについて
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6880/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（7）　来県外国人等への多言語による情報提供

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、外国籍県民や本県を訪れる外国人が安心してくらし、快適に旅ができるよう、多言語による情報提供を推進します。

（取組内容）

多言語支援センターかながわの運営や医療通訳派遣システム事業の活用により、来県外国人等に医療等の円滑な情報提供に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績
① 多言語支援センターかながわによる情報提供 ・多言語支援センターかながわの運営（問合せ対応件数 2,198 件）
② 医療通訳派遣システム事業の推進 ・医療通訳派遣システム事業の実施（医療通訳 5,879 件）
③ 外国人向け医療情報の提供 ・訪日外国人旅行者の受入可否を県内医療機関に確認し、JNTO（日本政府観光局）ウェブサイトで多言語対応可能な医療機関情報を提供（既存 45 件、新規 14 件）

2018 年度の取組みの方向性
① 多言語支援センターかながわによる情報提供 継続
② 医療通訳派遣システム事業の推進 継続
③ 外国人向け医療情報の提供 継続

（参考）取組みに関する情報
・多言語支援センターかながわ http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f3530/#4 ・医療通訳派遣システム事業 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f3530/#2

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

1　神奈川のおもてなし

（8）グローバルな視野を持つ人づくり

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、県民の誰もがグローバルな視野を持ち、行動できる人づくりを推進します。

（取組内容）

かながわ国際ファンクラブを活用した神奈川に親しみを持つ国内外の外国人のネットワーク化やグローバル化に対応した教育の推進など、将来を見据えた人づくり、人的ネットワークづくりに取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

① かながわ国際ファンクラブの推進

・留学生支援拠点「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION」において、母国語（英語、中国語、韓国語、ベトナム語）による相談（146 回開催）や専門カウンセラーによる「就職活動サポート」（109 回（毎週土・日曜日開催））、NPO団体などによるイベント（536 回）を実施

・企業や大学と連携し、留学生の受入拡大を図るための研修会（3回、129 名参加）の開催や留学生からの就職相談等を受ける支援拠点（8か所）を設置

・上記の取組みなどにより、会員が 6,025 人・団体（平成 29 年 3 月末）から 6,615 人・団体（平成 30 年3月末）に増加

② コミュニケーション支援ボランティアの育成

・国際言語文化アカデミアにおける外国籍県民を支援する日本語講座（14 講座）や、語学を生かしたコミュニケーション支援ボランティア養成講座（76 講座）などの実施

③ 外国語教員を対象とした研修の推進

・国際言語文化アカデミアにおける教員に対する専門研修の実施（44 講座）

・小・中学校の教員を対象とした外国語教育指導力向上研修を開催
（小・中　各2日間、計243人参加）

・児童・生徒のコミュニケーション能力の向上や多文化理解等を促進するため、外国語教員を対象とした語学に関する専門的な研修や、授業力向上など専門性を高める研修を実施

・県立高校英語教員をニュージーランドの語学学校での研修に派遣（約1か月、6名）

④ グローバル人材の育成

・8,000 人を上限として、県立高校生を対象に外部英語資格検定試験の受験料の半額を県費で負担

・県内高校生を教育特使として米国メリーランド州に1週間派遣(10 人)
・県立高校生を教育特使として台湾新北市に4日間派遣(6人)
・外国語指導助手を全県立高校に配置
・グローバル教育研究推進校(県立高校6校)におけるグローバル化に対応した先進的な教育の推進及び公開研究授業などを通した取組みの成果の普及

⑤ 人権啓発事業の推進

・人権メッセージ展の開催(2日間、参加者数:2,594 人)
・ハートフルフェスタの開催(1日間、参加者数:252 人)
・湘南ベルマーレとの連携(ホームゲーム・ファン交流イベント計3日、啓発グッズの配布数(約 9,000 個)、保育園での人権教室2日(参加者数:90 人))
・県庁本庁舎レインボーライトアップ及び支援団体のパネル展示(平成 29 年 12 月1日)
・①横浜FC、②横浜ビー・コルセアーズとの連携による啓発用クリアファイルの作製・配布(作製・配布数:①8,000 枚、②10,000 枚)
・かながわアスリートネットワークによるシンポジウム&交流会での啓発用クリアファイルの作製・配布(400 枚)
・性的マイノリティに係る啓発パンフレットの作製・配付(10,000 部)
・性的マイノリティに係る啓発物資の作製・配付(クリアファイル 10,000 枚、マスキングテープ 2,000 巻、付箋・ステッカー各 500 部)

2018 年度の取組みの方向性

① かながわ国際ファンクラブの推進

継続

② コミュニケーション支援ボランティアの育成

継続

③ 外国語教員を対象とした研修の推進

継続

④ グローバル人材の育成

拡充

・7日間で実施していた教育特使の米国メリーランド州派遣を1日延長し、プログラムの充実を図る

⑤ 人権啓発事業の推進

継続

（参考）取組みに関する情報
・かながわ国際ファンクラブ http://www.kanafan.jp/ ・人権週間(12 月 4 日～10 日、人権メッセージ展、ハートフルフェスタ、本庁舎レインボーライトアップの開催) http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535596/ ・性的マイノリティ(LGBT 等)に関する正しい理解を http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f430243/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

2　国際観光地としての魅力向上

（1）　観光客誘致

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、観光客の一層の増加を図ります。

（取組内容）

観光資源の発掘・磨き上げや戦略的プロモーションの推進、県産品の魅力向上などを通じて、多くの観光客の誘致に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①　県内を周遊するツアーの企画・商品化

・「神奈川県観光魅力創造協議会」を設置し、発掘・磨き上げを行った観光資源を活用した周遊ルートの商品化を要請

・神奈川県観光魅力創造協議会の開催3回、観光資源の発掘 2,190 件、モデルルートの作成 84 件、商談会の開催3回、認定分科会の開催3回（ツアー認定 651 件）

②　戦略的プロモーションの推進

・北関東や北陸・中部地方を中心としたエリアからの観光客誘致を図るための県外でのPRイベントの実施（10 回）

・神奈川県観光政策統括アドバイザーによるプロモーションへの助言

・現地観光レップによる情報発信（中国、台湾、ベトナム、インドネシア、マレーシア）

・現地国際観光展への出展、セミナー等の開催 11 回（台湾、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイ、アメリカ、中国）

・海外の旅行代理店、メディアやブロガー等情報発信力のある人物の招請 13 回（マレーシア、アメリカ、ベトナム、台湾、インドネシア、中国、イギリス、オーストラリア）

・SNSを活用した情報発信（Facebook、Weibo、Twitter、Instagram）

③　県産品の魅力向上

・「かながわ名産展」を開催し、「かながわの名産 100 選」に選定されている商品及び新たに人気・話題となっている商品を販売（開催日数 73 日、延べ出店者数 190 社）

④　県産農林水産品の発掘及び販売促進

・「江の島カマス」、「かながわ鶏」など新たに8品目をかながわブランドに登録

・川崎日航ホテル、ワークピア横浜、京急ストアなど 85 店舗をかながわブランドサポート店に登録し、連携して販売促進を実施

2018 年度の取組みの方向性
① 県内を周遊するツアーの企画・商品化 継続 ・神奈川県観光魅力創造協議会の開催3回、モデルルートの作成 200 件、商談会の開催3回、認定分科会の開催3回
② 戦略的プロモーションの推進 継続 ・神奈川県観光政策統括アドバイザーによるプロモーションへの助言 ・現地観光レップによる情報発信(中国、台湾、ベトナム、インドネシア、マレーシア、イギリス、オーストラリア) ・現地国際観光展への出展、セミナーの開催(台湾、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイ、アメリカ、中国) ・海外の旅行代理店、メディアやブロガー等情報発信力のある人物の招請(マレーシア、アメリカ、ベトナム、台湾、インドネシア、中国) ・SNSを活用した情報発信(Facebook、Weibo、Twitter、Instagram)
③ 県産品の魅力向上・発信 拡充 ・「かながわの名産 100 選」の見直しを行い、新たな名産品を選定
④ 県産農林水産品の発掘及び販売促進 継続

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

2　国際観光地としての魅力向上

（2）　新たな観光の魅力づくり

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、地域資源を活かした地域活性化を推進します。

（取組内容）

横浜・鎌倉・箱根に続く第４の国際観光地を目指す「新たな観光の核づくり」を推進します。また、神奈川の海に多くの観光客を呼び込む「かながわシープロジェクト」や、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を推進することにより、新たな観光の魅力づくりに取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

① 新たな観光の核づくりの推進

・「新たな観光の核づくり促進交付金」を活用して「新たな観光の核づくり」地域における先導的事業を実施（5市町7事業を支援）

② かながわシープロジェクトの推進

・Feel SHONAN公式ホームページの内容充実及び検索機能強化
・江之浦漁港にダイビング拠点を整備
・史上最大級のヨットフェスティバル「ENJOY 海 KANAGAWA」を実施（参加者数約 20,000 人）
・各種海関連のイベントを実施（参加者数約 19,000 人）
・海洋ツーリズムを展開するため、PR クルージングツアーや事業化検討クルージングツアーを実施【7回】

③ 三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進

・三浦半島観光連絡協議会のウェブサイト「LAUMI」の改修、デジタルサイネージやPR動画を活用したプロモーションを実施
・三浦半島の「食」の魅力に着目した「三浦半島はイタリア半島プロジェクト」を実施（参加店舗数 38 店）

2018 年度の取組みの方向性

① 新たな観光の核づくりの推進

継続

② かながわシープロジェクトの推進

継続

・海からしか見ることのできない景観を観光コンテンツとして活用した新たな観光（海洋ツーリズム）を展開するため、神奈川の海の魅力を最大限に生かしたクルージングツアーを企画・実施

③ 三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進

継続

・三浦半島の海や食の魅力を生かしたサービスの提供、情報誌の発行やホームページによる情報の発信などといった地域の活性化につながる事業を地域が一体となって、広域的な観光戦略を展開する新たな広域観光推進組織である三浦半島地域連携DMO（仮称）と連携して実施

（参考）取組みに関する情報

・Feel SHONAN公式ホームページ
http://feelshonan.jp/
・三浦半島を大切な人と分かち合うLAUMI（ラウミ）
http://www.laumi.jp/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

2　国際観光地としての魅力向上

（3）　観光の基盤づくり

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、誰でも快適に旅ができる環境づくりに取り組みます。

（取組内容）

観光案内・情報の多言語化を進めるとともに、トイレや Wi-Fi の整備、ホテルの誘致などを推進し、観光の基盤づくりに取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績
① 観光案内・観光情報の多言語化 ・外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-」の対応言語に、訪日外国人の多い中国語[繁体字]、中国語[簡体字]、韓国語の3種類を追加
② 外国人観光客の動態・ニーズ分析 ・動態分析結果に基づくプロモーションの実施（各種観光展出展時期の選定及び現地旅行会社への観光資源や周遊ルートの照会等に活用）
③ Wi-Fi・トイレ等の整備 ・Wi-Fi 整備や外国語表記の整備、トイレの洋式化等の取組みを補助（12 件）
④ ホテルの誘致 ・企業誘致施策「セレクト神奈川 100」により、ホテルの新設計画を認定（2社）
⑤ 宿泊施設の多様化の取組み ・県条例の改正等を実施

2018 年度の取組みの方向性
① 観光案内・観光情報の多言語化 拡充 ・外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-」の対応言語にベトナム語・タイ語を追加 ・SEM対策(検索エンジンマーケティング対策)を実施 ・インバウンドメディアを活用した PR を実施
② 外国人観光客の動態・ニーズ分析 継続

③ Wi-Fi・トイレ等の整備 拡充 ・神奈川県観光魅力創造協議会の観光資源に位置づけられた県有施設等について、案内板等の多言語表記及び無料 Wi-Fi を整備
④ ホテルの誘致 継続
⑤ 宿泊施設の多様化の取組み 継続 ・民泊に関する法整備がされたことから、適正な運営が行われるよう指導・監督を行い、健全な民泊の推進を図る

（参考）取組みに関する情報
・Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info https://trip.pref.kanagawa.jp/ ・企業誘致施策「セレクト神奈川 100」について http://www.pref.kanagawa.jp/docs/pw3/cnt/f534364/ ・企業誘致施策「セレクト神奈川 100」による立地企業一覧について http://www.pref.kanagawa.jp/docs/pw3/selectkanagawa100/20180405ichidu.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

3　神奈川から魅せる文化

（1）　文化プログラムの推進

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進します。

（取組内容）

市町村や関係団体などと連携しながら、マグカルのブランドイメージのもと、オール神奈川で、神奈川の文化プログラムの推進に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①　文化プログラムの推進

・知事と県内全市町村長で構成する「神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会」の部会である、県内全市町村の文化行政所管課長級で構成する「幹事会」を開催し（4回）、文化プログラムについてオール神奈川で発信していく方策を協議（平成 29 年5月、8月、11 月、平成 30 年3月の4回開催）

・県や市町村、文化芸術団体等が行う県内の文化イベント等を「神奈川文化プログラム」として認証（平成 30 年3月末現在の認証件数 47 件）

・大会組織委員会が認証する参画プログラム及び内閣官房が認証するbeyond2020プログラムへの県事業の認証を申請（平成 30 年3月末現在の認証完了件数
参画プログラム 19 件、beyond2020 プログラム 13 件）

・文化ホールなどで、伝統芸能や舞台芸術等の公演を開催

・県立の社会教育施設において、企画展示や講座などを開催

・県と市町村との文化財保護行政主管課長会議及び生涯学習・社会教育主管課長会議において、神奈川文化プログラム認証について周知

2018 年度の取組みの方向性

①　文化プログラムの推進

拡充

・新たに、魅力的なコンテンツの創出・発信、文化芸術関係団体等の企画・運営に対する支援、インバウンドを意識した情報発信の強化、多彩な分野の伝統芸能関係団体が一堂に会する公演等を実施

（参考）取組みに関する情報

・神奈川文化プログラム認証制度について
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f537313/

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

4　オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

（1）　オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

（ねらい）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、オリンピック・パラリンピックの意義を県民に広く伝えるための取組みを推進します。

（取組内容）

県民を対象としたイベントなどにおいて、オリンピック・パラリンピック出場経験者等の講演の実施や、オリンピック出場経験者の派遣などの取組みを進めるとともに、学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①　県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

・公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）とパートナー都市協定を締結

・JOC と連携し、県立相模原中等教育学校、県立平塚中等教育学校において、「JOC オリンピック教室」を開催

②　学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

・「かながわオリンピック・パラリンピック教育学習教材」の作成

・トップアスリートによるスポーツ教室の開催（小学校8校）

・県立特別支援学校でアスリート等によるスポーツ種目及びパラスポーツを体験するスポーツ教室を開催（全28校、計122回）

2018 年度の取組みの方向性

①　県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

拡充

・県民を対象とした「オリンピック・パラリンピックの意義を伝えるイベント」を開催

②　学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

継続

・「かながわオリンピック・パラリンピック教育学習教材」を活用したオリンピック・パラリンピック教育の推進

（参考）取組みに関する情報

・かながわオリンピック・パラリンピック教育学習教材
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cy3/gkt/opk-kyouzai.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

5　大会開催を契機としたスポーツ振興

（1）　かながわパラスポーツの推進

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、年齢や障がいの有無に関わらず、すべての人が自分の運動機能を活かしてスポーツを「する」「観る」「支える」こと＝「かながわパラスポーツ」を推進します。

（取組内容）

「かながわパラスポーツフェスタ」等のイベントを実施するとともに、学校におけるかながわパラスポーツの普及を進めます。また、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もがライフステージに応じてスポーツに親しむことができるよう、生涯スポーツや障がい者スポーツの普及・推進に取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績

①「かながわパラスポーツフェスタ」等の実施

・「かながわパラスポーツフェスタ 2017」を県内3箇所で開催（参加者　約 2,200 人）
・市町村等が開催するイベント等で障がい者スポーツの体験会等を実施
・地域で活動する人材として、かながわパラスポーツコーディネーターを養成（60 人）

②　学校におけるかながわパラスポーツの普及

・パラスポーツの体験授業を実施（小学校4校・中学校1校・高等学校5校）
・県立特別支援学校に、タグラグビーセットを 22 校、ボッチャ用ボール・ランプスのセットを 25 校、サウンドテーブルテニスを1校に配備

③　障がい者スポーツの普及推進

・「神奈川県障がい者スポーツ大会」を開催（参加者　1,245 人）、「神奈川県精神障がい者スポーツ大会」を開催（参加者　222 人）、知的障がい者が集う「神奈川県ゆうあいピック大会」を支援（参加者　1,025 人）
・初級障がい者スポーツ指導員（35 人）及び障がい者スポーツサポーター（131 人）を養成
・東京 2020 パラリンピック競技大会に「神奈川育ちのパラリンピアン」が 20 人出場することを目指し、アスリートや指導者を支援する「パラリンピアン育成事業」を実施（選手 35 名、指導者 2名）
・障がい者を対象としたパラリンピック競技体験会「パラスポーツトライアル 2017inかながわ」を2回開催

④ 健康・生涯スポーツの普及推進

・子どもと高齢者の交流事業や世代間交流イベントなどにレクリエーション指導者を派遣（50 教室）

・総合型地域スポーツクラブなどの運営に必要なマネジメント研修の実施（4回、72人）、指導者のスキルアップ研修の実施（4回、91 人）

・公益財団法人笹川スポーツ財団が主催するチャレンジデー2017 参加市町への支援（10 市町、延べ 312,867 人参加）

2018 年度の取組みの方向性

① 「かながわパラスポーツフェスタ」等の実施

継続

② 学校におけるかながわパラスポーツの普及

継続

・小・中学校については、実施の主体を市町村へ移行し、県立高等学校等を対象に取組みを継続して実施

③ 障がい者スポーツの普及推進

継続

④ 健康・生涯スポーツの普及推進

継続

（参考）取組みに関する情報

・神奈川県スポーツ局スポーツ課(障害者スポーツ関係)
http://www.pref.kanagawa.jp/div/0802/

・2017 レクの先生がやってくる(レクリエーション指導者派遣事業)
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417654/

・平成 29 年度　総合型地域スポーツクラブ等人材育成事業
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160355/p301794.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

5　大会開催を契機としたスポーツ振興

（2）　アスリートの育成

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、若手を中心とした県内アスリートを育成することにより、競技力の向上を図ります。

（取組内容）

県内アスリート育成等のための拠点となるよう、体育センターの再整備を進めます。また、両大会で「神奈川育ちの選手」として活躍が見込まれる有望アスリートを対象とした支援をするとともに、県内の中学校・高等学校における部活動活性化にも取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績
① 体育センターの再整備 ・PFI事業は、事業者と特定事業契約を締結し、建設工事のための設計を実施 ・県直営事業は、クレー球技場や補助競技場の改修工事を実施したほか、陸上競技場スタンド等の改修工事に着手
② 相模湖漕艇場の整備 ・ボートコースを2kmに整備するための設計業務を実施 ・老朽化したボート乗艇用の浮桟橋を整備 ・大会時には審判艇などとしても活用する、救助ボートを更新
③ アスリートの育成支援 ・東京 2020 大会に「神奈川育ちのオリンピアン」が 40 人出場することを目指し、アスリートや指導者を支援する「アスリート育成事業」（選手80名、指導者7名、指導者講習会実施3団体）を実施
④ 県内中学校・高等学校における部活動活性化 ・外部の専門的指導者の派遣（安全対策支援 14 名、強化支援 12 名） ・指導者の資質向上を図るための研修会の開催（3回） ・部活動促進（新しいタイプの部活動実践校（モデル校）3校）
⑤ ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致 ・ナショナルトレーニングセンター拡充施設横須賀誘致委員会の構成員として誘致活動に協力

2018年度の取組みの方向性
① 体育センターの再整備 継続 ・PFI事業は、本格化する建設工事をスケジュールに沿って実施 ・県直営事業は、陸上競技場スタンドの改修工事を継続
② 相模湖漕艇場の整備 拡充 ・2kmボートコースの整備工事を実施 ・全国大会で使用する競技艇を整備 ・作業艇の船外機を更新
③ 伊勢原射撃場の整備 新規 ・ライフル射撃場エアライフル射場の紙標的26台を電子標的に更新
④ アスリートの育成支援 継続
⑤ 県内中学校・高等学校における部活動活性化 継続 ・強化支援のみ6名に変更して実施
⑥ ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致 継続

（参考）取組みに関する情報
・神奈川県立体育センター等再整備事業について http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f533769/ ・部活動の活性化に関する取組みについて かながわ部活ドリームプラン21 http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cy3/gkt/bkd-dreamplan.html

Ⅱ　大会を契機としたかながわプログラム

5　大会開催を契機としたスポーツ振興

（3）　スポーツに親しむ環境の整備

（ねらい）

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、誰もが生涯を通じてスポーツに親しみ、健康で豊かな生活ができる生涯スポーツ社会の実現を図ります。

（取組内容）

誰もがスポーツに親しめる環境づくりを実現するため、3033 運動や子ども☆キラキラプロジェクトなどを通して、スポーツを楽しめる機会の創出に取り組みます。また、スポーツボランティアの育成にも併せて取り組みます。

2017 年度の主な取組みと実績
① 3033 運動の推進 ・運動・スポーツを行うきっかけづくりとする 3033 運動キャンペーンイベントの開催（40 回） ・日常生活の運動化としての階段のぼりをPRする取組みとして「横浜ランドマークタワー・スカイクライミング 2018」を開催（参加者 2,084 人）
② 子ども☆キラキラプロジェクト ・体力向上キャラバン隊の派遣（28 回） ・トップアスリートによるスポーツ教室の実施（公立小学校8校） ・運動習慣カードの作成・配付（政令市を除く公立小学校へ全児童分配付） ・健康体力つくりの情報紙の作成・配付（2回） ・県内一斉ラジオ体操デーのイベントを開催（1回）
③ スポーツボランティアの育成 ・スポーツボランティア団体と連携したイベントの開催（6イベント）

2018 年度の取組みの方向性
① 3033 運動の推進 継続

② 子ども☆キラキラプロジェクト

継続

・子どもの体力・運動能力の向上と運動習慣の確立に向けて、小学校の健康・体力つくりの取組みについての支援にあたる体力向上サポーターを公立小学校 14 校に派遣し、その取組みの成果について近隣校に普及啓発する報告会を併せて開催

③ スポーツボランティアの育成

継続

（参考）取組みに関する情報

・3033(サンマルサンサン)運動 ― くらしに運動・スポーツの習慣を ―
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ui6/3/3033.html
・横浜ランドマークタワー・スカイクライミング 2018 ★コラボイベント★三菱みなとみらい技術館スタンプラリー
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f533740/
・子ども☆キラキラプロジェクトに関する取組みについて
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cy3/gkt/kkt-kirakirapj.html

神奈川県
スポーツ局オリンピック・パラリンピック課 調整グループ 電話(045)285-0733(直通)
横浜市中区日本大通１ 〒231-8588 FAX(045)663-0113
電話(045)210-1111(代表) 内線 2981